

# 動物園からこんにちは

札幌市立伏見中学校

第2学年理科資料

こんにちは。円山動物園の「幅崎」です。動物園への質問で結構あるのが「動物の寿命」です。でも、その回答は「動物園での飼育記録」と「自然での寿命」は大きく違います。自然界ではちょっとした「けが」や「病気が」、命を落とす結果となってしまいます。今日の話題は、「草食動物のカモフラージュ」です。



「グラントシマウマ」の模様は、なぜあの？よく訊かれる質問です。確かに飼育舎で1頭だけ見るとよく目立ちますね。でも、本来は「群れ」をなして行動する動物です。

では、なぜ群れで行動するのでしょうか。答えは、この写真にあります。2頭のグラントシマウマが寄り添っています。友達と2人でライオンモードに突入しましょう。ここだと思ふ急所に「エイ」、2人で同時に鉛筆でさしてみましょ。一発で急所を、しかも2人で同時にねらうことが

できましたか。

となりの「マレーバク」は、やはりリットンの模様です。こちらは夜行性で月夜の薄明かりで個体がわからないようになっていと言われています。写真は日陰、逆光という写真撮影には良くない条件で撮影したものです。やっぱり一発で急所を押さえるのは難しいようですね。

草食動物は、敵から身を守るためにたくさんの工夫をしています。円山動物園の熱帯動物館では、正(西)門側から、エランド、アジアゾウ、マサイキリン、カバ、マレーバク、グラントシマウマの順に草食動物を飼育しています。彼(女)らの「命を守る工夫」を比べてみると良い自由研究ができますよ。(奇蹄目ウマ科、バク科)



## アスファルトに展示物発見！

熱帯動物館の屋外飼育場のお客様通路には、白と黄色のペンキでひそ



かな展示があることに気づきましたか。理科教師のはずの「幅崎」でさえ、アジアゾウ「花子」のペンキ表示には関心をもちませんでした。しかし、「マレーバク」のところで気づき、戻って確認した覚えがあります。そうです。これって実物大の足跡だったのです。そうなら、掲示や解説でちょっとPRしてくれればいいのに！子ども動物園のリスザルドーム入り口の展示はもっとわかりません。「これ、何？」勇気を持って質問しよう。

3ヶ月、園内を歩き回り続けています。学校でいうと正門横の「センター」が「職員室」、みなさんの教室が「子ども動物園」、そして、理科室や図書館が「世界の熊館」「トナカイ放飼場」というあたりでしょうか。自分にとっては、伏見中の長い渡り廊下も「校舎改築の情報源」でした。自分の足・目で稼ぐ情報というのは、どんな情報より確かな自信につながります。理科の学習は、自分のからだで確かめることが大切なんですね。では、また。